

# 日本購入トマホーク性能判明

## 全イージス艦に配備

あります。

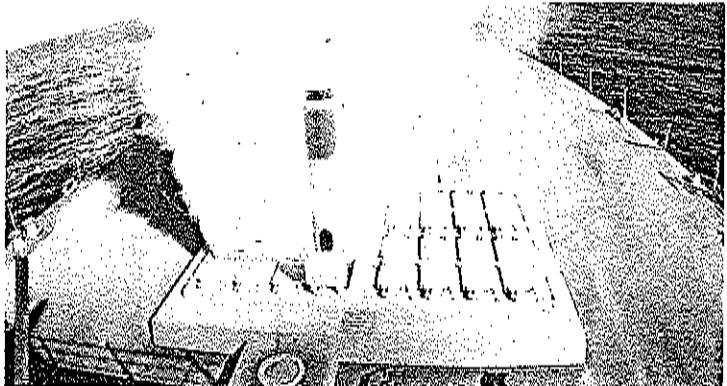
J MEWSは着弾後に無数の破片を生成す

岸田政権が進める「敵基地攻撃能力」保有の一環と

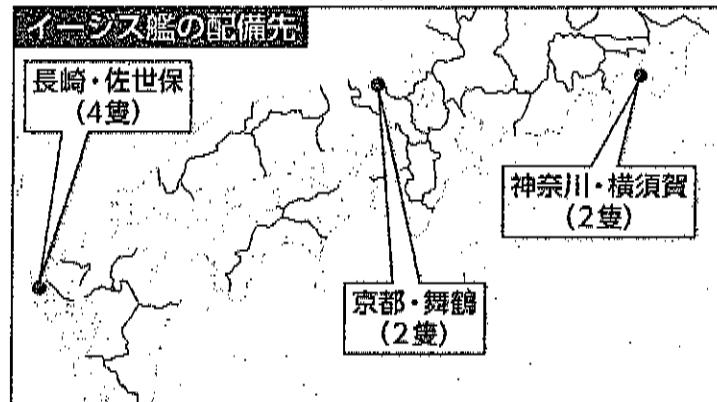
して、防衛省が取得を進めている米国製の長距離巡航ミサイル・トマホークは最新鋭の「トロックV(5)」

で、対地攻撃に特化したものだと分かりました。搭載される弾頭は厚い壁を貫通し、無数の破片が飛び散って内部を破壊することが可能とされています。他國領士への攻撃に特化した兵器で、むしろ「専守防衛の範囲内」との説明は成らぬ立証あらせん。

►関連記事



日本が購入を予定しているトマホーク・ブロックVの発射試験（2020年12月、米レイセオン社の動画から）



イージス艦が配備される横須賀（神奈川県）、舞鶴（京都府）、佐世保（長崎県）各港周辺に、トマホークを保管する大型弾薬庫が建造され、有事の際の攻撃目標となる危険があつます。

進んでいるトマホークは最

新規のブロックVで、対地攻撃用となる」と回顧しま

した。

「トロックV」には「J MEWS」（統合複合作用弾頭システム）と呼ばれて、「無数の子爆弾が分散するクラスター（集束）

单発で貫通・破壊できる」とあります。政府は敵基地攻撃の対象として、政府機関など相手国の「指揮統制機能」も擰げています。強固な防護壁で覆われた地下

です。米軍がイラクやアフガニスタンで使用した地中爆弾（バンカーバスター）で、無数の子爆弾が分散するクラスター（集束）

で飛び散り、防護壁内部の人間を殺傷する事が可能

です。また、海上自衛隊のイージス艦が敵をトマホークシス艦から奪うための戦闘能力も議論されています。

しました。防衛省は23年度予算でトマホーク400発

を購入費用2113億円と、イージス艦にトマホークを搭載するための関連器材の取得費は「8億円」と明確にしました。24年度で

イージス艦の改修費用を盛り込み、25年度でトマホークを保管する大型弾薬庫が建造され、有事の際の攻撃目標となる危険があつます。